

目 次

第1章 教育の目的、目標、理念等	4
《第1節 日本国憲法》.....	4
《第2節 教育基本法》.....	4
《第3節 学校教育法》.....	5
《第4節 その他の国内規範》.....	6
《第5節 国際条約等》.....	7
第2章 教育の思想と歴史的変遷	8
《第1節 諸外国の教育思想と歴史》.....	8
《第2節 日本の教育思想と歴史》.....	13
第3章 教育の制度	19
《第1節 教育制度の基礎》.....	19
《第2節 教育法規・教育行政の基礎》.....	21
《第3節 諸外国の教育制度》.....	24
第4章 教育の実践	25
《第1節 教育実践の基礎理論 — 内容、方法、計画 —》.....	25
《第2節 教育指導》.....	29
《第3節 教育評価》.....	32
第5章 生涯学習社会における教育の現状と課題	34
《第1節 生涯学習社会と教育》.....	34
《第2節 教育をめぐる現状と課題》.....	36
《第3節 近年の中央教育審議会答申等》.....	38

* 弊社の許可なく、個人的なご利用以外の目的でこのPDF教材を印刷・複製することを禁止します。

【ご利用方法】

- ① まずは、ダウンロードした「問題編」と「解答編」のPDFデータをすべて印刷（プリントアウト）しましょう。印刷した後、「問題編」と「解答編」を別々にクリップなどでまとめ、並べてご覧いただける形をご利用されるとよいでしょう。

「問題編」の問題は、すべて〇×式の一問一答問題となっております。〇×を別紙に書き出すなどして、ページ単位、《節》単位など、ご自分のペースで解き、解説を読み進めていってください。

「理解できた」「押さえられた」と思った問題については、問題番号の前のチェック欄にチェックをつけていき、ひととおりの解き終わった後は、チェックのない問題、チェックの少ない問題を重点的に見ていってください。何回も繰り返し問題演習をしていただいて、すべての問題に正解できるようになったときには、「教育原理」での得点力がかなりアップした状態になっていると思います。

- ② 「解答編」では、1問ごとに、A・B・Cの3段階で【重要度】を示しております。

【重要度C】でも、ここに掲載されていない知識よりは重要性が高いと考えますが、【重要度A】で間違えた問題を特にマークするなど、復習の際のメリハリづけにご利用いただきたいと思います。

- ③ 「解答編」中の「ダイジェスト版」とは、弊社販売の別教材「保育士試験科目別リベンジセット教育原理」の中の「教育に関する各種資料ダイジェスト版」のことをいうものとします。

また、「認定こども園法」とは、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」のことをいうものとします。

わが国の学校制度に関する記述において、「学校」という場合は、「教育基本法」に関する記述を除き、原則として「学校教育法」第1条に定める学校（一条校）を意味し、幼保連携型認定こども園を含まないものとします。

<お問い合わせ用メールアドレス>

ふくしかくネット：fukusi-n@lilac.ocn.ne.jp

ふくしかく楽天市場店：hoiku@fukushikakunet.jp

<ホームページ>

ふくしかくネット公式HP：https://fukushikaku.com/

ふくしかく楽天市場店：https://www.rakuten.co.jp/hoikushikaku/

<弊社運営ブログ>

「保育士試験：社会福祉・教育原理等攻略講座」：

https://ameblo.jp/fukushikaku-ks/

- 21 デューイ（Dewey, J.）は、教育を経験の再構成であると捉え、シカゴ大学に附属の実験学校を開設し、子どもの作業活動と社会的な生活経験の広がりを中心とする教育実践を行った。
- 22 キルパトリック（Kilpatrick, W. H.）は、子どもたちが自ら価値あると感じる課題を設定し、それをプロジェクトとして、目的 → 遂行 → 判断・評価という3段階を経て自主的に問題解決に取り組むプロジェクト・メソッドを提唱した。
- 23 エレン・ケイ（Key, E.）は、1900年に『児童の世紀』を著して、20世紀は「児童の世紀」であると宣言し、子どもの自己決定力の育成、体罰の拒否、子ども固有の権利などを訴えて注目を浴びた。
- 24 クラウダー（Crowder, N. A.）は、動物実験による学習理論に基づいてプログラム学習を体系化し、学習過程を細かい段階に分けて、そのつど学習を確認し、学習を成立させようとする直線型（リニア）プログラムを提示した。
- 25 ニール（Neill, A. S.）は、イギリスにサマーヒル・スクールを創設し、子どもの自由を尊重した教育実践を行った。
- 26 ペーター・ペーターゼン（Peter Petersen）はウィネトカ・プランを開発し、カリキュラムを、個別学習を主体とした「一般共通科目」と、集団で学ぶ「創造的集団活動」に分け、その組み合わせで総合的な教育を進めた。

- 27 ブルーナー（Bruner, J. S.）は、診断的評価、形成的評価、総括的評価の評価を適切に行い、学習条件を整備すれば、大多数の生徒にとって完全習得学習（マスタリー・ラーニング）が可能であると考えた。
- 28 フレネ（Freinet, C.）は、言語的な素材を用いた受容的な学習でも、有意義な学習であれば効果的な学習は可能であるとして、有意義受容学習の意義を提起した。
- 29 フレイレ（Freire, P.）は、その著書『脱学校の社会』（1970年）において、学校制度や学校教育を批判し、学校の廃絶を提唱した。
- 30 レイヴとウェンガー（Lave, J. & Wenger, E.）は正統的周辺参加（L P P）という学習理論を提唱し、まず学習者がやってみてから、教師が模範を示し、指導やアドバイスをを行い、言葉で行動を理解することにより、効果的に学習を進められるとした。

《第2節 日本の教育思想と歴史》

- 1 平安時代の教育機関には、大学寮・国学のほか、有力貴族が設けた私学として、和気氏の「弘文院」や藤原氏の「勸学院」などがあった。